

災害伝承碑紹介動画の制作とその活用について

和歌山県土砂災害啓発センター
那智勝浦町

有田貴洋・中村豊・稲田健二・筒井和男・岐山雄亮
佐藤純子

1. はじめに

和歌山県では、過去に明治22年・昭和28年・昭和33年・平成23年と歴史的な大規模土砂災害があり、各地には石碑等の災害伝承碑や災害記録が残っている（写真-1）。過去の災害を風化させることなく後世に伝えることで、過去の災害から学び備えることが重要である。

一方、平成30年7月豪雨で多くの犠牲者を出した広島県坂町の小屋浦地区では、100年以上前に起きた水害を伝える石碑があったものの、関心を持って碑文を読んでいたという住民の声が聞かれるなど、地元であっても災害伝承碑が十分に認知されていない状態である¹⁾。そこで、本研究では和歌山県全域に遺る災害伝承碑の位置図及び紹介動画を制作するとともに、防災教育・研修を通じて地元の災害伝承碑を伝達した事例及びYouTubeを活用した広報活動について報告する。



写真-1 各地に残る災害伝承碑

2. 位置図の制作

災害伝承碑の位置を把握するため、和歌山県立博物館が公開している石に刻まれた災害の記憶²⁾、大規模土砂災害対策技術センターが公開している「60年毎（1889年、1953年、2011年）に繰り返される紀伊半島の歴史的な大規模土砂災害」³⁾、その他郷土誌や災害誌をもとに現地調査を行った。

3. 動画の制作

現地調査で使用したカメラはSONYのミラーレス一眼α7III、レンズは崩壊跡地を明確に撮影できるよう、中距離望遠レンズであるTAMURON 28-75mm F/2.8 Di III RXDを使用した。また、動画編集ソフトはWondershareのfilmoraバージョン12.3、音声読み上げソフトとして、PIXIV FANBOXのVOICEVOXを使用し、登場するキャラクターに音声をつけることで視聴する人が見やすい動画となるものとした。また、動画は和歌山県PRキャ

クターである「きいちゃん」が災害伝承碑に興味を持ち、視聴者が「きいちゃん」と一緒に学んでいくシナリオとした。

4. 制作した災害伝承碑位置図・動画

4.1 位置図

調査結果を図-1に示す。位置図は①和歌山県紀北を流れる紀の川流域。②和歌山県紀中を流れる有田川流域。③日高川流域。④和歌山県紀南に位置する田辺市・西牟婁。⑤新宮市・東牟婁。以上の合計5地区に分類して整理するとともに、和歌山県全域を網羅した。

また、災害発生時期を色別で表示することや、地図の縮尺を大きくすることで、位置を特定できるものとした。



図-1 現地調査箇所と制作した位置

4.2 動画

災害伝承碑の紹介だけではなく、過去に発生した災害や崩壊跡地の説明を加えることで、災害をより自分事として捉えるようにした。特に東牟婁郡那智勝浦町編では、紀伊半島大水害の被災経験を紙芝居で伝える久保榮子さんに出演いただき、当時の状況を説明していただいた（写真-2）。



写真-2 語り部の久保榮子さんと「きいちゃん」

5. 災害伝承碑を活用した防災教育・研修

防災教育・研修を通じて地元の災害伝承碑を伝達した事例一覧を以下に示す（表-1）。参加者からは「地元のことで災害伝承碑や過去の災害のことについて詳しく知らなかった」といった感想をいただいた。

表-1 事例一覧表

実施日	対象者	人数
令和4年10月6日	田辺市立中山路小学校 5・6年	11
令和4年10月21日	田辺市立大坊小学校 4・5・6年	12
令和5年2月25日	地域講演会 Vol.7 in 田辺市	90
令和5年5月23日	上富田町連合婦人会	43
令和5年6月1日	田辺市立龍神中学校 1年	22
令和5年7月12日	那智勝浦町立市野々小学校 3・4年生	5
令和5年7月18日	日高川町立江川小学校 5・6年生	13
令和5年10月12日	新宮市立熊野川小学校 3・4年生	14
令和5年10月29日	日高川町川原河区	30
令和5年11月14日	田辺市女性会連絡協議会	70
令和5年12月1日	紀の川市立荒川中学校	57
令和6年2月17日	防災の寺子屋実行委員会	70
計 12回		437

6. YouTube における広報活動

制作した動画は広く周知するために公式 YouTube チャンネルで公開している。公開した動画は合計 5 本で各動画のサムネイルを以下に示す（写真-3）。動画も位置図同様、和歌山県全域分を制作した。再生回数は公開から約 1 か月で合計 400 回再生を超えた。また、今回の取組みは国土交通省国土地理院 HP の映像作品・報道での活用事例でご紹介いただき、ますます多くの方の目に留まることが期待できる。



写真-3 YouTube サムネイルと
二次元コード(左:YouTube 右:国土地理院 HP)

7. おわりに

現地調査を行うにあたって、災害伝承碑に刻まれた文字が風化の進行により、判読が困難であるものがいくつかあった。さらに、草木をかき分けなければ発見できないものもあった。過去の災害の記憶を後世に伝えるためには、手入れをする人や伝承する人の存在が必要であるが、石碑自体の意味を把握していない場合が多くあるように感じた。今後も制作した位置図や紹介動画を活用し、地元に伝達していく予定である。

謝辞：撮影のご協力をいただきました、那智勝浦町立市野々小学校の皆様には大変お世話になりましたことを、この場を借りて感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 国土交通省国土地理院：自然災害伝承碑，<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>，参照 2023-8-4
- 2) 和歌山県立博物館：石に刻まれた災害の記憶災害記念碑一覧，<https://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp/saigai/kouzui-list.pdf>，参照 2023-8-4
- 3) 国土交通省近畿地方整備局大規模土砂災害対策技術センター：60 年毎に繰り返される紀伊半島の歴史的な大規模土砂災害，<https://www.kkr.mlit.go.jp/kiisankei/center/img/saigais hi.pdf>，参照 2023-8-4